

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷二第

論說

- 戰後ノ關稅團體ノ計畫
- 生死減少逆行ノ法則

研究

- 植民政策上ノ根本問題
- 本多利明ノ經濟說(三完)

雜錄

- 不換紙幣流通ノ根據ニ就テ
- 在外正貨ノ處分ニ就テ
- 數トリ切手貼用法
- 全米貨幣統一案
- 獨逸^{ニ於テ}工場衛生問題ノ研究
- 經濟雜話(三)
- 再ビ本多利明ノ著書ニ就テ
- 歐洲戰爭ノ經濟的說明
- 戰時戰後ノ佛國物價
- 香港政廳卜對獨貿易

法學博士 戶田 海市
講 師 高田 保馬

法學博士 神戸 正雄
講 師 本庄榮治郎

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戸 正雄

教 授 財部 靜治

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 田島 錦治

講 師 本庄榮治郎

法學博士 河 上 肇

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 佐藤 丑次郎

全米貨幣統一案

助教授 河田 嗣郎

一 各國貨幣制度ヲ異ニスルコトハ世界交通經濟上洵ニ大イナル不便デアル。何等カノ方法ニ依ツテ其ノ統一ヲ計ルノ必要アルコトト、若シ一朝世界共通ノ貨幣制度ノ行ハルルニ至ルアラバ如何バカリカ便益多カル可キコトトハ、夙ニ世ニ認メラレタル所デアツテ、吾人亦之ヲ信ジテ疑ハザル者デアアル。而シテ國際貨幣制度統一ノ義ハ今ヨリ半世紀前ニ在ツテハ歐米ニ於ケル實際問題トシテ討究セラレ、一八六七年巴里ニ開カレタル國際貨幣會議ハ共通貨幣制ノ案ヲ立テ五法金貨^{フレン}ヲ以テ本位貨幣單位ト爲ス可キノ議ヲ定メ、一時此案ハ世ニ歡迎サレテ、曩ニ一八六五年ニ制定セラレタル拉典同盟ノ幣制ハ更ニ擴張セラレ、歐米諸國間ニ其ノ適用ヲ見ルニ至ル可キヤノ形勢ヲ呈スル迄ニ至ツタ。然ルニ此議ハ一八六八年ニ開カレタル英國ノ國際貨幣制

度委員會ノ反對ノ爲メニ打崩サレ、爾來今日ニ至ルマデ、國際貨幣統一ノ事ハ唯ダ一ノ希望トシテ、若クハ一ノ美ハシキ空想トシテ生キ長ラヘ來ツタニ過ギナカツタガ、此頃マタ米國ニ於テハ多少眞面目ニ此ノ問題ノ考量セラルルノ勢ヲ迎へ、本年一月わしんとん市ニ開催セラレタル全米科學協會Pan-American Scientific Congressニ於テハ、此ニ關スル成案ノ提出サレタルモノアリテ其ノ討論ヲ見ルニ至ツタ¹⁾。

全米科學協會ニ於ケル貨幣統一案ハ主トシテぶりんとん大學教授 E. W. Kennemer 氏ニ依ツテ唱道セラレタルモノデ、其案ハ固ヨリ全世界ヲ通ズル貨幣統一ヲ目的トスルモノデハナク、歐洲諸國ハ今日及ビ近キ將來ノ間ハ大戰ニ由ツテ生ズル經濟財政上ノ處置ト整理トノ爲ニ没頭忙殺サレ共通貨幣制ト云フガ如キ問題ニ考慮ヲ致スノ餘裕モ之レ無カル可キガ、而米諸國ハ大戰ノ始マリテ以來ハ特ニ幣制統一ヲ迎フルニ適スル事情ニ遭遇シタ事デアレバ、此期ニ於テ先

1) The Commercial and Financial Chronicle, Jan. 15 1916, p. 205

ヅ以テ米大陸諸國ヲ通ズル共通貨幣制ヲ布クノ計畫ヲ立ツ可シト爲スモノデアアル。而シテ之ニ依ツテ一ハ以テ經濟上ノ便益ヲ計リ一ハ又以テ全米主義ノ鼓吹ト普及トニ資セントスルモノデアアル。

試ニけんむらゝ教授ガ全米貨幣統一案ニ就イテ論唱スル所ヲ見ルニ、其ノ論點ハ大約左ノ如キモノト爲スコトガ出來ル。²⁾

二 先ヅ貨幣制度ノ統一ニ依リテ生ズル利益奈何ト云ヘバ、之ヲ五點ニ約言スルヲ得ルデアラウ。(一)統一貨幣制度ノ下ニ在リテハ物價ハ全米各國ヲ通ジテ各國民ノ容易ニ了解スルヲ得ル貨幣單位ノ數額ニ依ツテ之ヲ示スコトトナル。現今ニ在ツテハ各國各様ノ名稱貨幣ニ依ツテ物價ガ示サレテアル爲ニ國際間ニ於ケル價格ノ比較ヲ試ムルコトガ頗ル面倒デアリ、從ツテ商品ノ賣買及ビ之ガ代金ノ支拂ニ不便多キ結果トシテ國際間ノ通商貿易ガ被ル苦痛ト無駄トハ洵ニ鮮ナカラザル者デアアル。斯クテ折角生ジ來ル通商

ノ機會ガ不注意ノ内ニ遑ゲ去ル所モ尠少ナラザル次第デアアル。然ルニ今統一貨幣制度ノ行ハルルニ至ラバ此等ノ不便ハ一掃サレ、國際交易上ニ於テモ如何バカリ便宜ヲ得ルカ計ル可カラザルモノガアルデアラウ。(二)國際爲替關係ハ單純トナリ、ソハ頗ル簡明ニ Premium ト discount ノ步

合ニ依ツテ示サル可キガ故ニ事業家ハ容易ニ之ヲ了解スルコトガ出來、不當ノ爲替率ヲ取ララル等ノ危險ヲ免レルコトトナル。現今ニテハ尙ホ、曾テ Emery S. Ford 氏ガ一八七〇年倫敦ニ於テ統計協會デ之ヲ述ベタガ如ク、多數ノ製造業者ハ外國貿易ヲ試ミントシテ少シク事情ヲ調査シ見ルモ「貨幣ニ關スル部分」ノ了解シ難キガ爲メニ之ヲ斷念スルノ有様デアアル。(三)統一幣制ノ下ニ於テハ、現時ノ如ク貨幣ノ國際移轉ニ於テ一國ノ貨幣ヲ鑄造シテ之ヲ地金ト爲シ更ニ又之ヲ他國ノ貨幣ニ鑄造スルノ必要ガ輕減セラレルデアラウ。即チ統一幣制ノ下ニ於テハ米各國ノ貨幣ハ本位純分ヲ同ジウシ又其ノ單位價格

2) Kemmerer, A Proposal for Pan-American Monetary Unity (Political Science Quarterly Vol. XXXI, No.1, March 1916, p. 66-)

ヲ均シウスルガ故ニ各國間ニ自由ニ移轉シ一國ノ貨幣ハ他國ニ於テ法貨トシテ認メラレ、從テ國際貿易ハ安固トナリ又大ニ促進セララルニ至ル可キヤ明カデア。四統一幣制ガ一般ニ亞米利加諸國ノ貨幣制度ノ改善ヲ促ス利益ハ尠ナカラヌモノデアラウ。セぶおんす氏ノ言ノ如ク、一國ガ好キ通貨ヲ有スルハ甚ダ喜ブ可キ事デア。ルガ外國貿易ニ取ツテハ外國ノ貨幣ノ良キコトモ同様ニ重要ナ事デア。五最後ニハ又統一幣制ノ實行ヲ見ルニ至ルコトハ大ニ全米主義ノ思想ヲ促進セシムルデアラウ。其他尙ホ利點トシテハ幣制ノ統一ニ依リ開發ノ劣レル國ニ先進國ノ資本ノ流入スルヲ助クルコト、米諸國間ニ科學的統計材料ノ交換ヲ容易ナラシムルコト、國際間ノ鐵道貨客ノ運賃等ニ關スル計算ヲ簡單容易ナラシムルコト、旅客ニ兩替ノ不便ナキヲ得セシムルコト等ヲ上グルコトガ出來ル。

三 然シ右等ノ利點ニ對シテハ又幣制統一ノ實行ヲ妨グ可キ障礙ノ存スルヲ否ムコトガ出來

ス。ソレハ先ヅ第一ニハ各國ハ自國ノ有スル貨幣制度ニ對シテ依怙ノ見解ヲ持スルヲ常トシ、若シ他ノ諸國ニシテ自國ノ幣制ヲ其儘ニ採用シ吳ルルナラバ輒チ共通ノ幣制ヲ樹ツルニ贊成シヤウト云フ態度ヲ捨テナイコト之デア。次ニ又大イナル障礙ヲ爲スモノハ、共通制採用ノ結果從來ノ貨幣制度ヲ變ヘザル可ラザル諸國ニ於テ既存ノ債務ヲ新貨幣額ニ公正ニ換算スルノ困難ナルコトト物價ヤ勞賃ノ既成ノ標準ヲバ新變化ニ適合セシムル上ニ於テ混亂ノ生ジ來ルヲ免レ得ザルコトト之デア。此等ノ困難ハ決シテ之ヲ輕視ス可キモノデナイガ、然シ諸國ハ從來屢々此種ノ混亂ヲ處理スルニ就テ經驗ヲ有シテ居リ其ノ經驗ノ教ユル所ハ以テ將來ニ生ズ可キ此ノ困難ヲ除去スルニ足リルデアラウ。加之現今米洲諸共和國ノ紊亂セル貨幣制度ハ早晚必ズヤ改革ヲ必要トスル次第デアレバ此等ノ困難ハ是非トモ之ニ打克タザル可ヲザルノ事情ニ迫ラレ居ルモノタルヲ忘レテハナラヌ。

四 然ラバ扱テ進ムデ新タニ樹立サル可キ全米共通ノ貨幣制度ハ果シテ如何ナル價格單位ノモト爲スベキデアラウカ。之ニ就イテハ二ツノ案ガアル。一ハ五法單位案^{フラン}デ、他ハ弗單位案^{グラー}デアル。

(一)五法單位案ハ前ニ一言セシ一八六七年ノ巴里ニ於ケル國際幣制會議ノ提案ニ成レル者デアツテ、純分・九〇〇ノ五法金貨ヲ以テ本位貨幣ノ單位トナサントスル案デアアル。サレバ此案ニ依ツテ假リニ萬國統一ノ貨幣ガ出來ルトスルト英貨ハ Sovereign ノ金含有量ヲ〇・九% (即チ一磅ニ付キ約二片)ダケ減ゼザル可ラザルコトナリ、米貨ハ弗金貨ノ大ツヲ三 $\frac{1}{2}$ %ダケ減ゼザル可ラズ、而シテ佛國ハ二十五法金貨ヲ鑄造スルヲ要スルコトトナル次第デアツタ。斯クテ一弗ハ五法ニ相當シ五弗ハ一磅ニ相當スルコトトナル次第デアアル。今若シ此案ヲ世界共通幣制ニ採用スルコトトナレバ歐米ノ諸國ハ其ノ現行貨幣單位ヲ法カ弗カ磅カノ何レカニ近キモノトシテ居ルガ故ニ其ノ各自ノ貨幣ニ餘リ大イナル變更ヲ加

フルコトナクシテ新共通單位ニ合スルコトガ出來ル譯デアアルカラ、全世界共通ノ單位トシテハ此案ハ最モ適當ノ者ト云ハナケレバナラス。然シ乍ラ今歐洲諸國ニハ當分斯ノ如キ幣制統一ノ企望モナク又其ノ餘裕モナイモノトスレバ全米共通ノ單位トシテハ此案ガ好都合ノモノデアアルヤ否ヤヲ考ヘテ見ナケレバナラヌ次第デアアルガ、此考慮ノ下ニ於テハ五法單位案ハ餘リ適當ナ者デナイ。ソハ此案通りノ單位價若クハ其ノ倍數ノ單位價ヲ有スル國ハ Venezuela, Argentine 等僅カ四國ニ過ギズ然モ就中 Venezuela ノミガ事實上金本位制ヲ有スルニ過ギヌカラデアアル。(二)ソコデ問題ハ弗單位案ニ向イテ來ルガ、其適否ヲ攷フルニ就テハ先ツ米大陸ニ於ケル諸國ノ現行幣制ヲ一應調べテ見ル必要ガアル。仍テ試ニ其大様ヲ云ヘバイ一國ヲ除クノ外ハ法律上ハ何レノ國モ金本位ヲ採用シテ居ル。然ルニコ(一)一共和國中十一ヶ國ハ其ノ業務取引ノ關係ヨリ見レバ事實上ハ劣惡ナル紙幣本位デアリ一ヶ國ハ法律上モ事實上モ共ニ銀貨本位デアアル。即

チ此等十二ヶ國ハ事實ニ於テハ金本位デナク然カモ其ノ人口ハ合衆國以外ノ總テノ共和國ノ人口ノ八割九歩ヲ占メテ居ル。(ハ)八共和國ト加奈陀トハ名實共ニ金本位制ヲ探ツテ居ル。(ニ)而シテ此等ノ内五共和國 (Cuba, Nicaragua, Panama, Santo Domingo and United States) ト加奈陀トハ其ノ貨幣單位ハ弗若クハ其レト同等ノモノデアツテ然カモ其ノ人口ハ事實上ノ金本位制ノ下ニ在ル總人口ノ九割六分ヲ占メテ居ル。(ホ)事實上金本位制デアリ乍ラ弗ノ價格以外ノ單位ヲ持ツテ居ルノハ三共和國アルニ過ギズ、然カモ此等ノ國ニ於テハ合衆國ノ弗ハ都合ヨク流通シツツアル現狀デアル。(ヘ)弗若クハソレト同等ノモノヲ單位貨幣トシテ使用シツツアル金本位國ハ亞米利加諸共和國及ビ加奈陀ニ於テ流通スル總金貨量ノ五分四ヲ所有スル次第デアル。

サレバ若シ全米共通ノ貨幣單位トシテ例ヘバ純金ノ瓦若クハ砒ト云フガ如キ理想的單位ヲ新定スルコトナク既存單位中ノ何レカラ採用ス可シトナラバ弗制ハ他ノ何レノモノヨリモ適當ナル

モノト云ハナケレバナラス。即チ弗金貨ハ現今米洲諸國中ニ於テ最モ重要ナル金貨單位デアリ、他ノ單位ヲ有スル總テノ金貨ヨリモ數倍多ク流通シツツアリ、實ニ加奈陀及ビ二十一米國共和國ノ總人口ノ六割ハ弗貨幣ヲ使用シツツアルガ故デアル。且又弗ハ磅ノ如ク大ニ過ギズ又法ノ如ク小ニ過ギズ、寔ニ貨幣單位トシテハ手頃ノモノデアル。

ソシテ新單位トシテ弗制ノ採用サルル曉ニハ加奈陀、合衆國等既述ノ六ヶ國ハ何等現制ヲ改ムルノ必要ナク、之ヲ改ムルヲ要スル國ニ於テモ亦其ノ改正バ僅カバカリノ事ニテ足り技術ニシテ巧妙ナルヲ得バ其レガ爲メニ何等ノ混亂ヲ惹起スルコトハナイデアラウ。又紙幣本位ヤ銀本位ノ諸國モ其ノ弊制ノ改革ヲ必要トスル事ハ夙ニ之ヲ感ジテ居リ、金本位制ニ移ラント希望シツツアルモノナレバ、新弊制ニ入ルコトハ元ヨリ覺悟ノ前ノ事トテ左迄大ナル困難ヲ感ズルコトハナイ筈デアル。眞ニ多少ノ混雜ト迷惑トヲ感ズ可キハ二三ヶ國ニ過ギヌト思ハレル。

斯ノ如クニシテ一朝全米共通ノ幣制ノ布カレタル際ニハ加奈佗及ビ米洲諸共和國ハ何レモ確乎タル金本位制ノ上ニ立チ、其ノ金貨ハ何レモ純分・九〇〇ニシテ又皆十分一法ニテ分割サルルノ制ヲ有スルモノトナリ、各國ノ流通貨幣ノ單位ハ互ニ簡單ナル分數若クハ倍數ニテ比較サルルヲ得、其ノ比較計算ハ誠ニ容易ナモノトナルデアラウ。

新共通幣制ノ下ニ於ケル貨幣ノ形狀ハ各國個有ノ金貨ノ面ニ例ヘバ "Pan-American Union" ト云フガ如キ刻印ヲ捺スコトヲ以テ足リ、貨幣單位ノ名稱トシテハ西班牙語ノ oro (金ノ義) ト云フガ如キヲ用ユレバ可イデアラウ。

五 Kemmerer 教授ノ右ノ意見ニ對シテハ全米科學協會ノ會員中ニモ大イナル反對ガアリ、紐育ノ V. Gonzales 氏ノ如キハ次ノ様ナ反對意見ヲ述ベテ居ル。

全米共通ノ貨幣單位ヲ建ツルト云フハ實際不可能ノ事デアアルノミナラズ不必要ニシテ且ツ不便ノコトデアアル。尤モ本位制ヲ共通ニスルト云フ

コトハ別問題デアツテ、本位トシテハ固ヨリ全米諸國何レモ金本位制ヲ取ル可キモノデアアルガ、然シ貨幣ノ名稱、其ノ重量及ビ其ノ實質價値ハ必ズシモ同一ナルヲ要セズ又相似タルモノタルヲ必要トセス。而シテ現下戰爭ノ爲メ爲替及ビ總テノ通商上財政上ノ交通取引ノ斯ノ如ク攪亂サレ、曩ニハ國際取引決済ノ共通要具タリシ英貨ガ其ノ力ヲ失ヒ來リタル今日ノ狀態ニ於テハ、之ニ代ル可キ新タナル國際支拂要具ヲ必要トナスヤ言フ俟タズ、此ノ新タナル役目ハ勿論米貨ノ弗ニ依ツテ行ハシメナケレバナラヌガ然シ之ガ爲メニ諸國ノ幣制ヲ畫一ニシ其ノ改革ヲ行ハシム可キ必要ハ毫モ存セナイ。曩ニ磅爲替ノ一般ニ行ハレタ時ニ當ツテモ毫モ之ヲ必要トシナカツタデハナイカ。

戰前ニ於テハ爲替ノ Party ハ共通ノ本位制即チ金本位制若クハ金爲替本位制ヲ有スル國々ノ間ニ在リテハ唯ダ簡單ニ金ガ國內外ニ流出入スルコトニ依リテ維持セラレ、爲替相場變動ノ範圍ハ其運搬ノ日子ト費用トニ依リテ上下共ニ限局

セラレタノデアアル。唯ダ不換紙幣ト銀本位制ト
ヲ有スル國々ノミガ爲替ノ Parityヲ保ツコトヲ
得ズ、爲替相場ノ變動ハ銀本位制ノモノニ在ッ
テハ銀ノ金ニ對スル相場ニ從ヒ、不換紙幣ノ國
ニ在ッテハ規律ナキ金紙ノ鞘ニ從ッテ行ハレタ
ルヲ見ルニ過ギナカツタト。

此ノ反對意見ナルモノハ誌上報ズル所ダケデハ
其ノ理論ノ基礎トスル所ヲ示シテ居ラヌカラ、
卽チ唯ダ「反對デアアル、現狀ニテ可ナリ」ト云フニ
過ギヌカラ、議論トシテ前ノ共通弊制ノ主張ノ
意見ト對比シテ是非曲直ヲ正スコトガ出來ヌ。
從テ吾人ハ吾人元來ノ主張ト一致スルガ故ニけ
むむらゝ氏ノ共通制主張ノ意見ヲ尊重シテ茲ニ
贊成ノ意ヲ表シ度イト思フ次第デアアル。而シテ
吾人ハ固ヨリ問題ハ米洲ノミニ限フル可キニア
ラザルヲ思フ者デアアルカラ、之ヲ以テ全米主義
ノ鼓吹ノ具ト爲サントスルガ如キ種類ノ考慮ニ
ハ寸毫ノ價值ヲモ認ムルコトガ出來ヌ。唯ダ廣
ク之ヲ世界共通ノモノトスルニ於テ大イナル意
義アリト信ズル。